

元の理～この世の摂理～

2020.12.11 ver.

-作成途中- ©小林真

人間が生きる意味。それは人を助け又助けられ、遊び心の中に喜び勇む道、「陽気遊山」にある。自分の身体、又、この世の全ては、陽気遊山の為に借りている物で、心のみが自由な存在である。心が自ら陽気遊山に向かう時、現実はすぐに変わり始める。この図表は、世の中の事象・現象を全て解き明かすものである。深く思案してみてほしい。

どんな道も、案じ心は持たぬよう。 *「理」=事実、要因

どんな時も、この身、全てを借りてることを忘れずに。

どんな小さな事象にも、自分にとって何かの意味がある。

十柱の働きには、「陰での働き」主体(陽3:陰7)のものと「陽での働き」主体(陽7:陰3)のものが存在する。

自分ではなく、周りを立てる心。普段は見えない陰で下から支え、大事な所で俊敏に足を運びつぱって支える。局面を見極める洞察力と仲間(他の骨)との密接な連携が欠かせない。

足の役割。頭低く、影で下の方から支える柱の働き。

ここぞという所で俊敏に硬化する働き。

物事が治まる理。

過剰（くもよみ 不足）：
もう不要なものや引き出さなくていいものまで引き出してしまう状態。

-引き出し3割の加減

不足（くもよみ 過剰）：
物事の表面部分が目について、隠れた長所や本質に気付かず引き出せない状態。
長所や良さを潰してしまう状態。他人に対する見下す心（優越感）、自分に対して過度にへりくだる心（劣等感）など。

ぬくもりが陰の働きを引き出す、実りの働き。
動植物の成長は、日光によって引き出される。

聞き上手が話し上手に。勇み心を八方へ。

過剰（たいしょく天 不足）：
受ける側にとって、風がしつこい状態。暴風・台風状態。两者の声や思いが通らない。受ける側は身動きが取れず、聞き分け、嗅ぎ分けできない。肥（声）をやり過ぎ、乾いて枯れた状態。

不足（たいしょく天 過剰）：
受ける側にとって、風通しが悪い状態。言葉足らずで心がじめじめと腐る状態。湿気、陰気臭い、しけた顔、ため息、息苦しい、虫がわく、カビ。また過度に閉め切る為に鳴る、金切声（耳障り）の状態。陰口、愚痴、愛想尽かし、切り口上、捨て言葉、誹謗中傷

挨拶は風の働き。声は肥。相手の状態に合わせて自ら吹かそう。柔軟にかける言葉は変えよう。

物事の起点となり、ほこりや汚れを洗い流す澄んだ水の心。
冷静で、広大な海の心。目の前ではなく、遠くの景色を見るから落ち着く。気長にやさしく。物事の根を綺麗にする心。見えない陰で尽くす楽しみ。「目は心の窓」眼は心根の現れ。

くにとこたち不足時：
高血圧、不安症
ストレス過多、高熱、過緊張、不眠症、眼の身上 etc.

どこまでも、ひくい、やさしい、すなおな心、眞実の心で。

『この道は言うて聞かず道やない。行うて見せる道や』
自ら勇んで通り、その姿を周りや社会へ映していく時、世界が変わってくる。逞しい往還道へと繋がっていく。
また、見聞き、経験する事象、現象が、なぜ、どういう理で現れたのか、「自分は」どういう理を尽くすのか、自ら思案し悟ることが大事になってくる。同じ物事でも見方が変われば、景色が変わる。全て心通りに映っていく。

志は大きく。心定めが全ての起点。

場所、目的を定める。左親指 無意識領域。

先の楽しみを見定め、陰で落ち着いて本心。魂。物事の根っこを澄み潤わせる心。

左の役割 陽3: 陰7

①くにとこたち

体内：眼、心根、睡眠、感覺神經

副交感神經、潤い、体の70%水分

世界：水、雨、海、根、夜

地球の70%水分

宇宙の70%暗黒エネルギー

一日はじまる 北 立春

十日 十分 北東 春分

*太陰太陽暦

日の出

七日 なんにも言ことない 東 立夏

八日 八方ひろがる

夏至 南東 昼

五日 たりをふく

立秋 南

二日 たづぶり

日 地 母

陰の働きを有難く思い、こみ上げてくる明るいぬくみの心

陽7: 陰3

②をもたり

体内：体温、活力、感情

交換神經、運動神經

世界：火、太陽、熱、光

マントル、エネルギー

右の役割 右親指 意識領域。

ほこりやいんねんを厳しく現す性質。

陰の働きを有難いと思えた理。湧き上がってくるぬくみの心。温かい光で周りを明るく照らす、見える働き。物事の原動力となる。人を喜ばせ、助けたいという想い。感謝、情熱が行動へ。

くにとこたち不足時：

冷え性、悪寒、低血圧、貧血、極寒、低体温etc.

人の埃が見える間は、自分にもそれだけの埃がある...

心のほこり（毎日払い、人にほこりを積まぬよう）

おしい、ほしい、かわい、よく、こうまん

にくい、うらみ、はらだち、嘘、追従（我が身心を捨てる）

死ぬというのは、着れなくなった衣服を脱ぎ捨てるのと同じこと。

過剰（かしこね 不足）：
物事が處理しきれず、その状況を断ち切る状態。
瞼が勝手に下がってくる状態。

不足（かしこね 過剰）：
物事への執着が強くなり、先案じや保身の考えが先行して、先へ進めない状態。不安や心配などで、瞼を閉じ切れない状態。割り切れず思い切れず、踏み切れない、けじめがない。切れ味が悪い、保守的

過剰（をふとのべ 不足）：
物事を強引に受け入れ、闇雲に流れてしまう状態。暴飲暴食・下痢状態。咀嚼せず、味わわず、消化せず、吸収できず。大雨洪水状態。物忘れる傾向。

不足（をふとのべ 過剰）：
物事を柔軟に受け入れず、流れに反して物事に執着し手放さない状態。偏食、拒食or便秘状態。干ばつ状態。過去や現状に執着し、老廃物を流せない状態。嫌な事が頭に浮かび、忘れられない傾向

→過剰&不足：物事が身に付かず、朝を迎えない。新たな清々しい空気、新鮮な景色を迎えられない、無理な辛抱や我慢

柔軟に流れに合わせて。苦（雲）のない循環はない。

人を助ける処に、自分が助かる。
相手とともに、皆で助かっていく道。

ヒント！

【二つの理とその均衡】
対になる働きは助け合い、シーソーのように運動して作用する。

- ①くにとこたち：②をもたり
 - ③いざなぎ：④いざなみ
 - ⑤くにさづち：⑥月よみ
 - ⑦くもよみ：⑨をふとのべ
 - ⑧かしこね：⑩たいしょく天
- 隣り合う働きも夫々似ており連動している。なので、この図は3Dで立体視することも可能である。